

(6) 東 海



東海地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は一部に弱さがみられるものの、緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

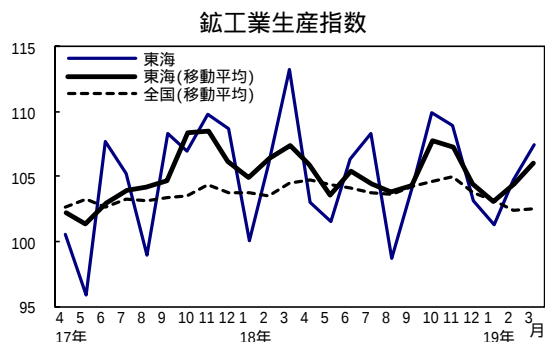
前回からの主要変更点

	前回 (平成 31 年 2 月)	今回 (令和元年 5 月)	
鉱工業生産	緩やかに増加	一部に弱さがみられるものの、緩やかに増加	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は一部に弱さがみられるものの、緩やかに増加している。

1 - 3 月期には、「輸送機械」は、国内及び海外向けの乗用車が堅調であることから、増加した。「電子デバ、電気・情報通信」は、スマートフォン向けの集積回路、液晶が減少したことから、減少した。「石油・石炭製品、化学、プラ製品」は、減少した。「汎・生産・業務用機械」は金属工作機械が低調であることから、減少した。「鉄鋼業、非鉄金属、金属製品」は、減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10 - 12 月期	1 - 3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	40.1	6.1	1.3	3.4	8.5	1.3
電子デバ、電気・情報通信	13.3	2.6	▲10.0	▲12.3	2.3	16.6
石油・石炭、化学、プラ製品	13.0	2.8	▲6.7	▲5.4	▲0.1	3.0
汎・生産・業務用機械	11.2	0.8	▲7.6	▲7.2	▲1.8	0.8
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	6.4	1.5	▲0.9	▲1.2	1.1	▲2.2
鉱工業	100.0	3.4	▲2.6	▲1.7	3.4	2.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1 - 3 月期、3 月は速報値。

(備考) 1. 2015 年 = 100、季節調整値。東海の最新月は速報値。

2. 全国及び東海の太線は中心 3 か月移動平均。

直近月は 2 か月平均。

3. 東海は内閣府にて算出。

2. 個人消費の動向

個人消費は持ち直している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

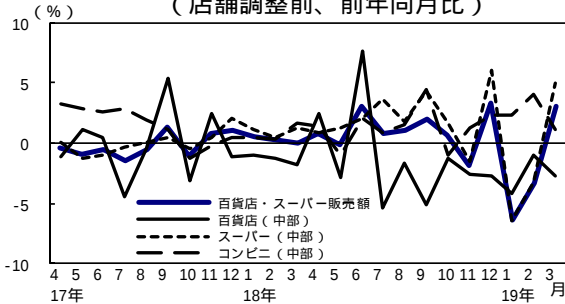
1月は前月比1.8%減、2月は同0.1%減、3月は同1.9%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、高額品に動きがみられたものの、衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。2月は、高額品や衣料品に動きがみられたものの、飲食料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。3月は、高額品に動きがみられたものの、衣料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。

スーパーは、1 - 3月期は、野菜の相場安や暖冬により飲食料品等が振るわなかったことから、前年を下回った。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2019年1 - 3月	2019年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	▲0.8	▲1.8	▲0.1	1.9
百貨店・スーパー(*2)	▲2.3	▲6.4	▲3.3	3.1
百貨店(*3)	▲2.7	▲4.2	▲1.0	▲2.7
スーパー(*3)	▲1.8	▲6.4	▲3.3	5.0
コンビニ(*3)	2.4	2.3	4.0	1.1
乗用車(*4)	▲2.1	1.8	▲0.2	▲6.0
(季節調整値)(*4)	▲3.0	3.8	▲1.8	▲4.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

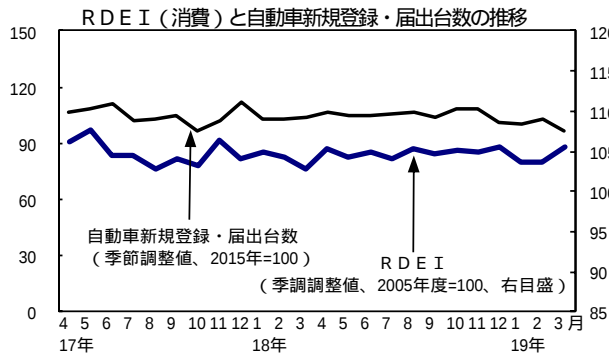
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部
(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%)



3. 雇用情勢

雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。

